

坂出の武大神社は、県道 27 号太子御津線の坂出北信号を西へ入ったすぐのところにある。西隣には坂出の屋台蔵があり、その南は臨濟宗の蓮華寺で、網干れんげ保育園を併設している。

御祭神は素盞男命(スサノオノミコト)であり、荒神さんという通称で地域の方に親しまれている。素盞男命＝荒ぶる神ということだろう。御神徳は、町内繁盛・家内安全・五穀豊穰・学業向上・病氣平癒ということで、オールマイティの神様のようだ。祭礼日は毎年4月の最終日曜日であり、今年は4月30日に行われた。建立時期は定かではないが、隣接している蓮華寺が正保3年(1646年)に開創されている事から、同寺開創の前後の年代に建立されたと推測される。現代の武大神社は昭和51年12月に改築された。『網干町史』によると、坂出は寛永3年(1626年)、坂上出屋敷として創設された、網干では最も新しい村である。大江島の源太夫が命を受けて、坂上村から八郎右衛門、三郎太夫などを出し、大江島村や谷村から農民を移住せしめて、荒田を開かじめ高385石余を分割したと坂上村の由緒書に記されている。

武大神社境内を見てみよう。玉垣は北半分のみ並び、南側には鉄柵がある。鳥居はなく、注連柱が左右にある。常夜燈が1対あるが、どちらも基礎と笠、宝珠は古いものだが、火袋、中台、竿は新しい。おそらく昭和51年に改築されたときのものだろう。右側の基礎に世話人3名(井上〇太郎 三木〇之助 井上徳太郎)またその西に少し小さい常夜燈が1基あり、昭和54年5月奉納 西本勝義の銘がある。狛犬も1対あり、台座は古く右側には明治39年10月井上久太郎の銘がある。左側の台座の銘は読めない。狛犬は昭和52年12月の銘があり、右側には井上捨三、左側には井上保男の名がある。拝殿には昭和51年12月の改築の際に寄付をした方々の名と金額が書かれた額が掲げてある。拝殿の奥が神殿であり、昔から変わらず地域の方々の崇信を集めている。

網干歴史講座会員 中川千里



・武大神社全景



・拝殿から見た神殿



・拝殿



・春祭り(2023.4.30)